

# 思いを歌唱表現に生かすことができる児童の育成

— 低学年の学級担任が取り組める

「音楽科授業モデルプラン」の作成と活用を通して —

長期研修員 井戸 貴子

## 《研究の概要》

本研究は、小学校音楽科の歌唱領域において、低学年の学級担任が取り組める「音楽科授業モデルプラン」を作成・活用し、低学年の歌唱共通教材を扱った授業を通して、思いを持って歌唱表現に生かすことができる児童の育成を目指したものである。具体的には、「はばたく群馬の指導プラン」の基本的な授業の流れを基に、発問や言葉がけ、試行の場の設定等を示した「音楽科授業モデルプラン」を活用した授業を提案し、学級担任に対するモデルプランの有効性について授業実践を通して検証した。

**キーワード** 【音楽—小 思い 歌唱共通教材 低学年 学級担任 モデルプラン】

群馬県総合教育センター

分類記号：G05-03 平成27年度 255集

## I 主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、小学校、中学校、高等学校を通じる音楽科の改善の基本方針の一つとして「音楽科、芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する」ことが示されている。また、改善の具体的事項では「斉唱や簡単な合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、協同する喜びを感じたりする指導を重視する」ことが必要であると述べられている。

群馬県では、平成24年度に行われた「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」において、歌詞の内容を把握することに課題があることが明らかになった。また、平成27年度の学校教育の指針において「曲を表現する活動では、曲に合わせて、どのように歌や楽器で表現したらよいか考えさせ、それを試す場を設けましょう」と表現活動の中に、試行の場を取り入れることが求められている。さらに「はばたく群馬の指導プラン」では「歌詞内容や曲想をもとに、表現を工夫して演奏すること」が学年に応じた示され「音楽的な感受の学習を基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切に授業づくりに努め、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりできるようにすることが求められている」と示されている。「思いや意図をもつこと」については、「はばたく群馬の指導プラン～実践の手引き～」において、「表現を追求したり、曲を聴いたりしていく上で動機となったり、方向性になったり、根拠になったりするなど、とても大切なものである」と、その大切さが挙げられている。

研究協力校では今年度より音楽専科の配置がなくなり、全学年で、学級担任や音楽の免許を持たない教員による音楽指導が行われるようになった。特に歌唱表現については、児童が「みんなで歌うことは楽しい」と感じている様子は見られるが、指示どおりに歌うことや、大きな声で歌うことに満足してしまっており、「音楽を感じ取って歌唱の表現を工夫する」という本来の目指すべき指導内容まで深まらず、教員からは、「内容を深めるための手段が分からない」という声や、「音楽から感じ取ったことを基に、思いを持たせるにはどうしたらよいか分からない」という声が聞かれる。また、学年ごとの到達目標の理解も不十分で各学年の指導が次年度につながらず、系統的な指導が難しい面が見られる。特に若手教員や、音楽の指導に苦手意識を持つ教員については、1単位ごとの音楽の授業のつくり方がよく分からず、戸惑っている様子が見られる。

平成23年度の群馬県の調査において、「小学校において学級担任が音楽を教えている割合」は、1年生96%、2年生79%、3年生34%、4年生24%、5年生15%、6年生14%となっており、学年が下がるほどに、学級担任が音楽指導を行っている割合が高いことが分かる。研究協力校のみならず群馬県全体においても、特に低学年の学級担任が音楽指導に悩みを抱えていることが懸念される。

本研究では、それらの課題を踏まえた上で、学級担任が音楽指導を行っている割合が高い低学年の歌唱指導において、まず思いを持たせるためにはどうしたらよいかということについて、次に一人一人が抱いた思いを集団で高め、表現するにはどうしたらよいかということについて、具体的な手立てを明らかにしていく。そのために、教材の価値付けや、「はばたく群馬の指導プラン」の基本的な授業の流れを基に、発問や言葉がけ、場の設定等を示した、「音楽科授業モデルプラン」を作成し、その活用を通して、若手教員や音楽指導に苦手意識を持つ教員の具体的な指導へと生かしていく。それらの取組は、自らが思いを持ち、その思いを歌唱表現に生かすことができる児童の育成へとつながると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

音楽科における低学年の歌唱指導において、楽曲から感じ取ったことを基に、思いを持って歌唱表現に生かすことができる児童を育成するために、授業の流れ、発問や言葉がけ、場の設定等を示した「音楽科授業モデルプラン」を作成し、活用することの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

「思いを歌唱表現に生かすことができる」とは

児童が、楽曲から感じ取ったことを基に、「こう歌いたい」と、表現に対する自分の考えや願いを持って歌唱表現することを「思いを歌唱表現に生かすことができる」と捉える。思いを持つことで、児童は目的意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができ、それを実現するために必要な技能を身に付けることの大切さを実感することができる（ここでいう表現とは音楽表現と、思考の過程や結果を言葉等で表す表現の両方とする）。さらに友達と思いを伝え合い、思いを共有し合いながら表現を試し、工夫していく中で、仲間と共に音楽を表現する喜びを味わい、思いを歌唱表現に生かすことができるようになる（図1）。

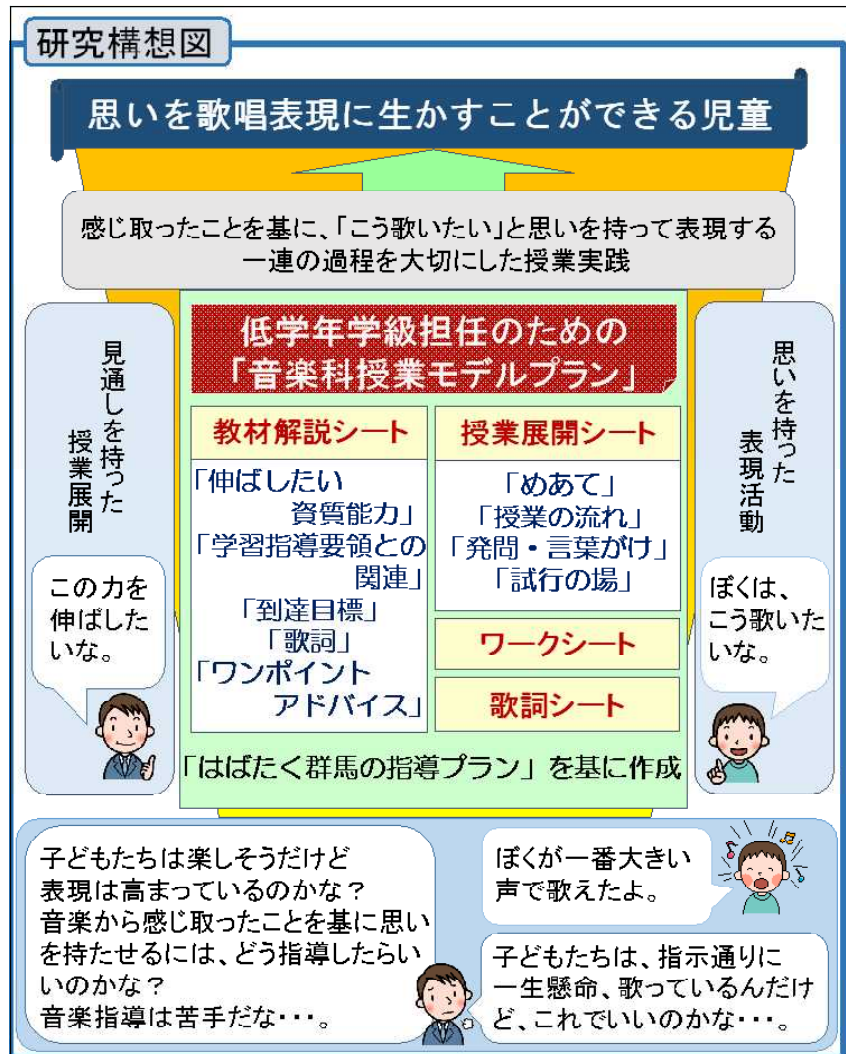


図1 研究構想図

#### 2 教材に係る実態調査と考察

##### (1) 教員

所属校の教員に歌唱指導の授業についてアンケート調査を行ったところ、多くの教員が「歌唱の授業で苦労していることがある」と回答している。苦労していることの内容としては、「1単位時間の音楽の授業の流れがよく分からない」「児童が指示どおりに歌ったり、大きな声で歌ったりすることで満足してしまっている」「児童が感じたことを、どう表現につなげたらよいか分からない」等が挙げられた。また、「毎時間の身に付けさせたい資質能力を明確にし、授業では毎時間めあてを示し、授業の最後に振り返りを行っている」と答えた教員は約半数であった。これらの結果から、児童が楽しく音楽活動に取り組んでいる様子は見られるが、教員は、音楽科で求められる「音楽的な感受の学習を基に思考・判断し表現する一連の過程を大切にした授業づくり」をするにはどうしたらよいか、悩んでいる様子が伺える。

##### (2) 2年生児童

2年生の児童を対象に「音楽の授業に関するアンケート調査」を行ったところ、「様子を思い浮かべて歌っているか」「きれいな声を意識して歌っているか」等、質問のほとんどの項目でおおむね良好な結果が見られた。しかし、「授業の始めに、『今日はこのことを勉強するんだな』ということが分かっているか」という質問に対しては、約半数の児童が「当てはまらない」「分からない」と回答していた。また、「拍の流れを感じて歌っているか」の質問に対して、約半数の児童が「分

からない」と回答していたが、授業の観察から、ほとんどの児童が拍の流れによって歌うことができていた。このことから、「今日は拍の流れを感じて歌うんだな」というように、児童自身が活動の目的を意識できるような授業が進められていないことが考えられる。

### 3 教材の概要

#### (1) 低学年の学級担任のための「音楽科授業モデルプラン」の作成方針

本プランは、特に低学年における1単位ごとの音楽の授業の作り方がよく分からず、戸惑っている若手教員や、音楽の指導に苦手意識を持つ教員のための「授業モデルプラン」である。具体的には以下の3点に基づいて作成していく。

- ① 「伸ばしたい資質能力」や「学習指導要領との関連」や「到達目標」を簡潔に示し、その教材が持っている価値や概要、目指す児童像をつかみやすいようにする。
- ② 「はばたく群馬の指導プラン」（平成24群馬県委）「はばたく群馬の指導プラン～実践の手引き（平成26群馬県教委）」に示されている授業の流れを基にする（表1）。
- ③ 音楽的な感受の学習を基に、思考・判断し表現する一連の過程において具体的な発問や児童に対する言葉がけを多く取り入れたり、集団で表現を高めるために、思いを友達と伝え合う表現の工夫の試行の場を取り入れたりする。

表1 「はばたく群馬の指導プラン」を基にした基本的な授業の流れ

〈基本的な授業の流れ〉	
1	音楽学習に臨む楽しい雰囲気をつくる。
2	本時のねらいをつかむ。
3	本時の中心となる音楽活動を行う。 ・曲の音楽的な特徴を感じ取る ・思いや意図を持つ ・思いや意図を共有する ・表現の工夫を試行する
4	本時の学習のまとめをする。

#### (2) 低学年の学級担任のための「音楽科授業モデルプラン」の内容

我が国の良き音楽文化を受け継いでいく意義を踏まえた現行の学習指導要領に基づき、取り扱う楽曲数が各学年ともに増えた歌唱共通教材を取り上げる。歌唱共通教材は、子どもからお年寄りまで、世代を越えて一緒に歌うことができる素晴らしい教材である。これらの曲を歌い継いでいくことは、我が国の良き音楽文化を受け継いでいく意味からも大切なことである。

低学年の学級担任が取り組みやすいように、「教材解説シート」「授業展開シート」「ワークシート」「歌詞シート」の4部で構成した。また、「授業展開シート」（基本型）を作成し、どの歌唱教材でも使用できるようにした。以下に「音楽科授業モデルプラン」教材一覧表と使い方の例を示す（表2、図2）。

表2 「音楽科授業モデルプラン」教材一覧表内容

「音楽科授業モデルプラン」 教材一覧表	
1年	No.1 「ひらいたひらいた」 No.2 「かたつむり」 No.3 「うみ」 No.4 「ひのまる」
2年	No.1 「かくれんぼ」 No.2 「虫のこえ」 No.3 「タヤケコヤケ」 No.4 「はるがきた」

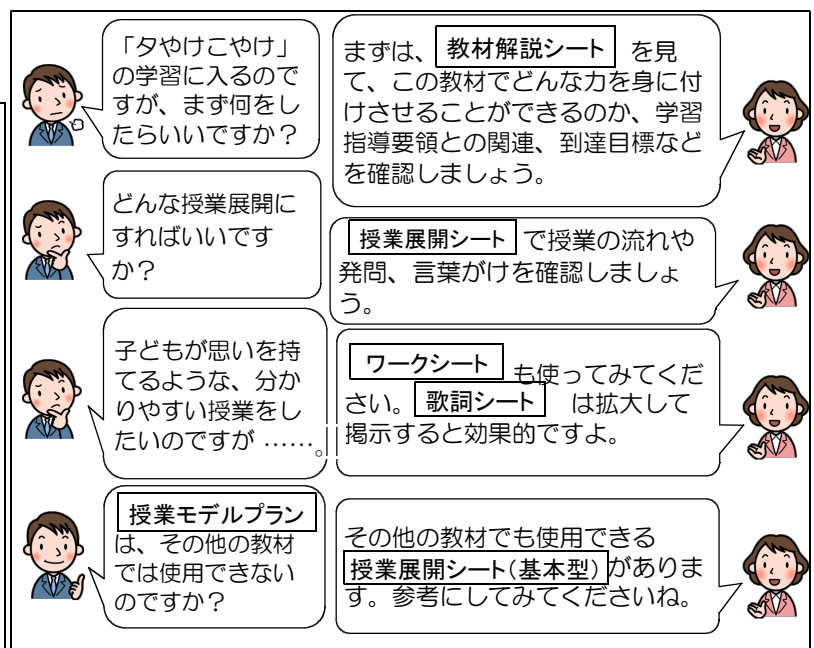


図2 「音楽科授業モデルプラン」の使い方

### ① 「教材解説シート」について

「はばたく群馬の指導プラン～実践の手引き～」には、「各時間で伸ばしたい資質能力を明らかにしておきましょう」と示されている。学習指導要領との関連を基に、各時間で伸ばしたい資質能力を明らかにし「特に伸ばしたい資質能力」「学習指導要領との関連」を示した。低学年においての「歌うこと・思いを持つこと・試行の場の到達目標」を示すことで、指導者が目指す児童をイメージし、見通しを持った授業展開ができるようにした。また、教材をイメージしやすいように「歌詞」を取り入れた。歌唱共通教材の持つ、日本語の美しさや素晴らしさを味わいながら、言葉一つ一つを大切に扱えるように、視覚でも捉えられると考え、縦書きで構成した。さらに、その教材の指導において心がけるとよいポイントを「ワンポイントアドバイス」として加えた。以上の内容で「教材解説シート」を構成した(図3)。

### ② 「授業展開シート」について

「はばたく群馬の指導プラン」の題材の基本的な流れを基に、「めあてをつかむ」「感じ取る」「思いを持つ」「思いを共有する」「表現の工夫を試行する」という一連の流れを踏まえた学習内容を示した。また、具体的な発問、言葉がけを多く取り入れた。学習活動の中には、自分の考えを明確にしたり、友達の考えのよさに気付いたり、考えを広げたりするためのペア学習や、個が持った思いを共有し、ペアや集団で歌唱表現を聴き合いながら試行する試行の場を設定した。継続して使用することで、子どもたちが、感じ取ったことを基に、「このように表現したい」という思いを持つことができるようにした。そして、思いを友達同士で共有し、それを試しながら技能を習得し、歌唱表現を高めていくことを定着させるとともに、仲間と音楽を表現する喜びを味わうことにつながっていくような「授業展開シート」を考え(図4)。

図3 教材解説シート

図4 授業展開シート

### ③ 「ワークシート」と「歌詞シート」について

低学年児童が、感じ取ったことや、「この曲の感じを表すために、このように表現したい」という思いを記述し、自分の思いを明確にするための「ワークシート」を作成した。書いたことを基に、友達と伝え合ったり、授業後に教師が確認したりすることもできると考えた。発達段階に応じて、選択肢の中から思いを選んで○で囲んだり、児童が答えやすいように、発問や児童の回答欄を吹き出しにしたり、人物のイラストを添えたりした。また、拡大して掲示し、学級全体で、言葉の確認をしたり声に出して読んだり、視線や意識を集中させて歌ったり、児童の思いを書き込んだりするための「歌詞シート」も併せて作成した（図5）。

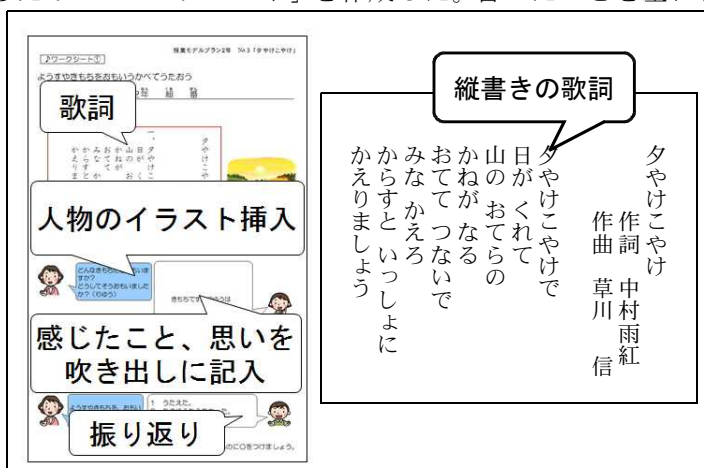


図5 「ワークシート」と「歌詞シート」

### ④ 「授業展開シート」(基本型)について

歌唱共通教材以外の教材でも使用できるように、「授業展開シート」(基本型)を作成した。めあてをつかみ、感じ取ったことを基に「こう歌いたい」と思いを持って表現するまでの、一連の過程を踏まえた発問、児童への言葉がけのキーワードを発問例として示した。さらに、それぞれのキーワードの留意点も示した(図6)。



図6 「授業展開シート」(基本型)

## IV 研究の計画と方法

### 1 実践の概要

#### 授業実践〔1〕「夕やけこやけ」

対象	研究協力校 小学校第2学年 21名
実践期間	平成27年7月1日～7月3日 2時間
題材名 教材名	ようすやきもちをおもいうかべてうたおう 歌唱共通教材「夕やけこやけ」
題材の目標	楽曲の気分を感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方の工夫をする。

#### 授業実践〔2〕「虫のこえ」

対象	研究協力校 小学校第2学年 21名
実践期間	平成27年10月20日～10月23日 2時間
題材名 教材名	ようすをおもいうかべてうたおう 歌唱共通教材「虫のこえ」
題材の目標	歌詞の表す様子を想像して、身近な虫の声を感じ取り、歌い方の工夫をする。



## 2 検証計画

「音楽科授業モデルプラン」の各シートは、学級担任が、思いを歌唱表現に生かすことができる児童を育てる指導を充実させる上で有効な教材であったかを、「授業展開シート」を中心に、以下の観点に基づき検証する。









検証の観点	検証の方法
学級担任が「授業展開シート」に基づき、授業の始めに、児童にとって分かりやすい「めあて」を示し、授業の終末にねらいに沿って「振り返り」を行ったことは、児童に見通しを持って活動させ、思いを歌唱表現に生かしたことを実感させる上で有効であったか。〈「めあて」と「振り返り」〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前、事後のアンケート</li> <li>ワークシート</li> <li>授業中の演奏聴取</li> </ul>
学級担任が「授業展開シート」に基づき、楽曲から感じ取った気分や、その気分を醸し出す理由を意図的に問いかけたことは、児童に音楽を形づくっている要素を感じ取らせ、それらを基に思いを明確に持たせることに有効であったか。〈ねらいに沿った発問、言葉がけ〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の表情の観察</li> <li>授業中の発言、つぶやき</li> <li>授業者への聞き取り</li> </ul>
学級担任が「授業展開シート」に基づき、一人一人が抱いた思いを、友達と伝え合いながら試行する場を設け、ねらいの達成に向けて教師が働きかけたことは、児童に集団で表現を工夫する楽しさを味わわせながら、思いを持って歌唱表現させることに有効であったか。〈試行の場の設定〉	
学級担任が「教材解説シート」「ワークシート」「歌詞シート」を活用して授業を行ったことは、思いを歌唱表現に生かすことができる児童の育成に有効であったか。	

## 3 実践

### (1) 授業前

「音楽科授業モデルプラン」活用場面	留意点等
♪「教材解説シート」の活用  教材のイメージをつかむことができました。	特に伸ばしたい資質能力や、学習指導要領との関連、歌うこと、思いを持つことの到達目標等を確認する。
♪「授業展開シート」の活用  授業に対する見通しを持ってました。	めあてや、発問、言葉がけ、場の設定等、授業展開を確認する。

### (2) 実践〔1〕「タやけこやけ」 第2時

主な学習活動	「音楽科授業モデルプラン」の活用場面
○めあてをつかむ。	♪「授業展開シート」の活用 見通しを持たせる言葉がけ  今日は一番と二番の様子の違いを、強さを工夫して歌いましょう。  今日は、強さを工夫して歌うんだね。
○曲の音楽的な特徴を感じ取る。	音楽的な特徴に気付かせる発問  一番と二番の様子は同じですか？違いますか？どこからそれがわかりますか？そのことが分かる言葉に線を引きましょう。 ♪「ワークシート」の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に線を引く</li> <li>強さを選択する</li> </ul>
○思いを持つ。	思いを引き出す発問  強さをどんなふうに工夫してみたいですか？  二番は夜だから、寝ている小鳥を起こさないように小さい声で歌いたいな。
○思いを共有し試行する。	試行を促す言葉がけ  試してみましょう。 ♪歌ってみる 試行の場 ♪聴いてみる  寝ている小鳥を起こさないように歌ったんだね。小さい声は、夜の様子に合っていたよ。
○学習のまとめをする。	学びを振り返らせる言葉がけ  では、最後にみんなで一番と二番の様子の違いを思い浮かべて、強さを工夫しながら歌ってみましょう。 ♪「ワークシート」の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返り自己評価する</li> </ul>
	♪「歌詞カード」の活用 拡大して掲示し、言葉に線を引いたり、大きさを提示したりする。

(3) 実践〔2〕「虫のこえ」 第1時

主な学習活動	「音楽科授業モデルプラン」の活用場面
○めあてをつかむ。	<p>♪「授業展開シート」の活用</p> <p>見通しを持たせる言葉がけ</p> <p>今日は、虫たちが鳴いている様子に合わせて、強さの工夫をして歌いましょう。</p> <p>虫たちが鳴いている様子に合わせて、強さの工夫をするのね。</p>
○曲の音楽的な特徴を感じ取る。	<p>音楽的な特徴に気付かせる発問</p> <p>歌詞の中にある、虫の名前や鳴き声を確認しましょう。最初の部分は「鳴き声を聴いている人の言葉」と「虫の鳴き声」で呼びかけ合っているみたいですね。</p>
○思いを持つ。	<p>思いを引き出す発問</p> <p>虫の鳴き声の大きさを選び、思い浮かべた様子をワークシートに書きましょう。</p> <p>♪「ワークシート」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強さを選択する</li> <li>・思い浮かべた様子を書く</li> </ul>
○思いを共有し試行する。	<p>試行を促す言葉がけ</p> <p>試してみましょう。</p> <p>♪歌ってみる</p> <p>試行の場</p> <p>♪聴いてみる</p> <p>ぼくは、鳴き声をみんなに聴いてほしくて、大きく歌いたいと思っていたけど、見つからないように小さく歌うのもいいね。</p>
○学習のまとめをする。	<p>学びを振り返らせる言葉がけ</p> <p>では、最後にみんなで「虫のこえ」の様子を思い浮かべながら、自分が選んだ声の大きさと歌ってみましょう。</p> <p>♪「ワークシート」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り自己評価する</li> </ul> <p>♪「歌詞カード」の活用</p> <p>拡大して掲示し、「虫の鳴き声を聴いている人の言葉」の部分や、虫の名前や鳴き声を確認したり、大きさを掲示したりする。</p>

V 研究の結果と考察 ～実践〔1〕・〔2〕を通して～

楽曲から感じ取ったことを基に、思いを持って歌唱表現に生かすことができる児童の育成のために、授業の流れ、発問や言葉がけ、場の設定等を示した「音楽科授業モデルプラン」の作成と活用の有効性を、四つの検証項目について、「具体的な実践内容」「ワークシートの分析」「アンケートの結果」「教師への聴き取り」の四つの観点を中心に考察する。

1 「授業展開シート」～「めあて」と「振り返り」～

(1) 結果

① 具体的な実践内容

授業の導入で、音楽学習に臨む雰囲気をつくった後に本時のめあてを示し、学習の見通しを持たせた。その発問の様子は、図7に示したとおりである。あらかじめ、表が「めあて」裏が

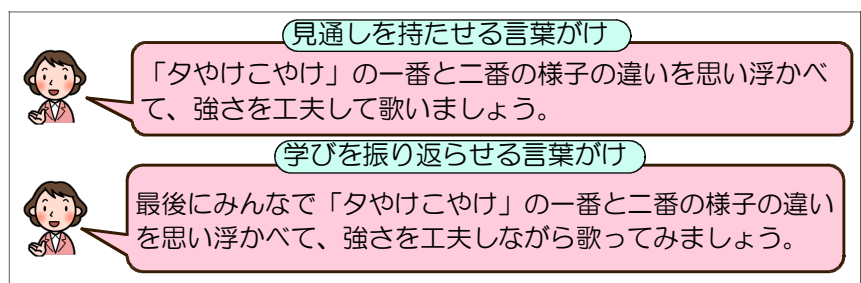


図7 実践〔1〕「タヤケコヤケ」第2時より 発問例

「ふりかえり」のカードを作成しておき、本時のめあてを必ず板書する。全員で「めあて」を声に出して読み、この時間に何を学習するのか見通しを持てるようにした。活動の途中でも、必ず、めあてに立ち返り、児童の意識がそれないようにした。また、本時のまとめにおいても、本時のめあてを振り返り、まとめとして授業の最後に全員で歌い、児童が「歌えるようになった」だけで終わ



らず、「一番と二番が表している様子の違いを歌詞の中から見付け、それに合わせて強弱を工夫できて、楽しかった」ということを実感できるようにした。

## ② アンケートの結果(実践前6月と実践後10月に実施)及び、授業者への聞き取りから

児童への授業実践前のアンケートでは、「この時間は、このことについて学習するんだな、ということが分からない」と回答した児童が50%ほど見られたが、授業実践後のアンケートでは全員がめあてを理解できていると回答している(図8)。

また、授業実践前のアンケートでは、「授業の終わりに、この時間はこのことを学習したんだなということが分からない」と回答した児童が19%見られたが、授業実践後のアンケートでは全員が、本時に何を学習したかを理解できていると回答している(図9)。

以下は、授業実践〔1〕・〔2〕を終えて、授業者から聞き取った内容である。「以前は、『この時間は、この曲を鍵盤ハーモニカで演奏します』『この曲を歌います』等、最初に活動を示していた。今回、授業の最初にめあてを示す段階で、活動の質的な面も意識して、全員で、めあてを声に出して確認すると、児童の頷き、表情などから『この時間はこれを勉強するんだな』と理解している様子が伺えた」「授業の途中にめあてに立ち返ることで、児童だけでなく自分自身(授業者)も、めあてを意識して授業することができた」「授業の最後に『今日はこれを学習しましたね』と振り返ることで、全員で歌った場面では、児童が、自分なりに工夫したことを生かして歌っている様子が見られた。その姿を称賛すると、頷いたり、満足そうな表情を浮かべたりしている児童もいた」

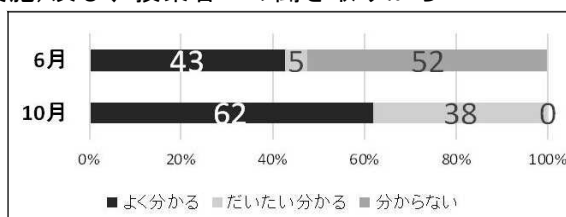


図8 学習の見通しの理解についての変容

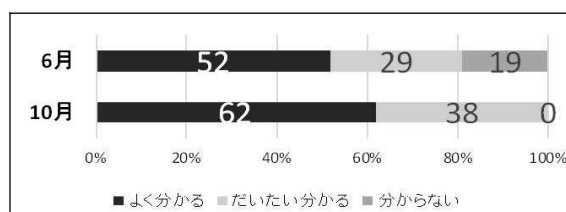


図9 本時に学習したことの

理解についての変容

## (2) 考察

低学年児童は、口頭で本時のめあてを伝えられても、1時間そのことを意識し続けて学習することは難しいと考えられる。板書しても、児童がめあてを認識していなければ見通しを持った学習活動につながらない。めあて・振り返りを板書し可視化したこと、さらに、活動の中で教師がめあてに立ち返る言葉がけを行ったことが、図8のアンケート結果につながったと考えられる。また、授業の最後に振り返りを行うことを継続することが、図9のアンケート結果につながったと考えられる。授業者への聞き取りからも、授業者自身が、めあてを意識して授業を進められたことで、児童にも活動の目的を意識しながら授業に取り組ませることができ、授業の最後において、一番と二番の様子の違いを思い浮かべて、強さを工夫して歌っている児童の姿から、思いを歌唱表現に生かしたことを実感させることができたと考えられる。

## 2 「授業展開シート」～ねらいに沿った発問、言葉がけ～

### (1) 結果

#### ① 具体的な実践内容

実践〔1〕の第2時では、「夕やけこやけ」の歌詞に着目させ、様子の違いを感じ取らせた。まず「一番と二番の歌詞が表している様子は同じなのか」と発問した。全員の児童が「一番は夕方、二番は夜」と回答した。「では、どこからそれが分かったのか」と問いかけ、歌詞から読み取ったことを確認した。一番は「夕やけ」「日が暮れて」「鐘が鳴る」等の言葉から「夕方」であることを、二番は「お月さま」「夢をみる」「星」等の言葉から「夜」であることを読み取っていた。それぞれの言葉から様子を思い浮かべながら、「一番と二番をそれぞれどんな強さで歌いたいのか」について、思いを持たせることにつなげていった。

実践〔2〕の第1時では、「虫のこえ」の範唱を聴いたり、歌ったりして、楽曲のイメージをつ

かませながら、まず「虫の鳴き声をどの大きさを歌いたいのか」選択させた。その上で「なぜその大きさを選んだのか」「虫がどんな様子で鳴いているところを思い浮かべたのか」を問いかけ、「虫がこんな様子で鳴いているからこの大きさを歌いたい」と、思いを持たせることにつなげていった。

## ② 児童が記入したワークシートの分析

### ア 実践〔1〕より

一番の歌詞は「夕方」を、二番の歌詞は「夜」を表しているということについては全員の児童が記述できていた。「一日のうちのいつを表しているか、そのことが分かる言葉に線を引きましょう」という発問に対して、全員の児童があてはまる箇所には線を引くことができていた。しかし、約40%の児童はあてはまる箇所以外にも線を引いてしまっていた。また「一番・二番をどの大きさ（強さ）で歌いたい」「その大きさを選んだ理由」についての記述には、「一番は夕方だから中くらいのイメージなので、中くらいの声で、二番は夜、みんな寝ていて静かなので、小さい声で歌いたい」「一番は夕方でカラスとバイバイするから、中くらいの声で、二番は夜、寝ている小鳥が目覚まさないように小さい声で歌いたい」のようなものがあり、範唱や歌詞から様子を思い浮かべている様子が見られた(図10)。しかし、歌いたい大きさは選ぶことができたが、その理由について書くことができなかった児童が約30%であった。

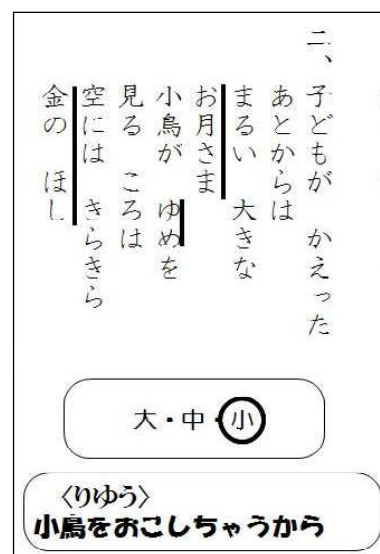


図10 児童のワークシートより

### イ 実践〔2〕より

「虫のこえ」の虫の鳴き声を「どの大きさを歌いたいのか」、そして「その大きさを選んだ理由」をワークシートに記述するようにした。「どの大きさを歌いたいのか」について、全員の児童が選択できていた。選択した理由についても、全員の児童が記述できていた。しかし、その内容については、「元気な様子」「みんなにすごく聴いてもらいたい様子」等、虫の様子について記述していた児童は全体の約50%であった。「ちょうどいいから」「大きいとうるさいし、小さ過ぎると聴こえないから」等、虫の様子に結び付かない記述が約50%見られた。

## ③ 児童へのアンケートの結果(実践前6月と実践後10月に実施)及び、授業者への聞き取りから

「歌を歌う時に、歌詞の様子を思い浮かべて歌っていますか?」という質問に対して、授業実践前は、76%の児童が「歌っている」「だいたい歌っている」と回答していたのに対し、授業実践後のアンケートでは95%の児童が「歌っている」「だいたい歌っている」と回答している(図11)。

また、「歌う時に、大きくしようとか小さくしようと考えて歌っていますか?」という質問に対して、授業実践前は、76%の児童が「歌っている」「だいたい歌っている」と回答していたのに対し、授業実践後は全員が「歌っている」「だいたい歌っている」と回答している(図12)。

授業者からは、「ねらいに沿った発問から、『夕やけこやけ』では歌詞に着目させたり、『虫のこえ』では、虫がどんな様子で鳴っているかイメージをつかませたりすることができた。そのことから、思いを明確に持たせることができた」また、「大きさを選んだ理由について書くことができなかった児童は、普段から、思ったことを文章に表すのが苦手な児童である」という言葉が聞かれた。

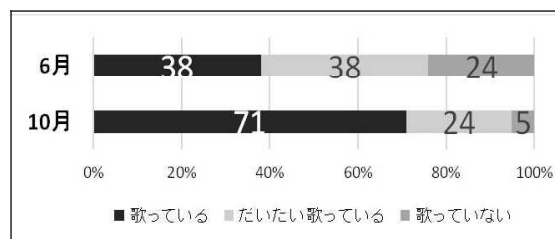


図11 様子を思い浮かべて歌っているかの

意識の変容

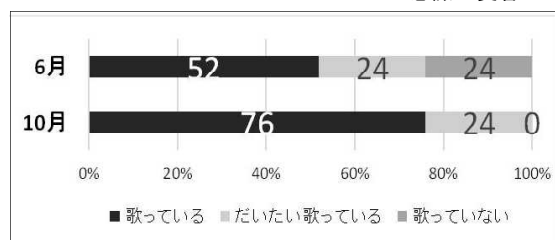


図12 強弱の工夫を考えて歌っているかの

意識の変容

## (2) 考察

実践〔1〕において児童は、「一番と二番の歌詞が表している様子は同じですか?」「歌詞のどこからそれが分かったのですか?」という問いかけから、音楽を形づくっている要素の一つである「歌詞」から、一番は夕方、二番は夜を表していることに気付くことができたと考えられる。一つ一つの言葉から、楽曲のイメージを膨らませ、様子を思い浮かべることができたことが、ワークシートの記述からも分かる。そして、「歌詞」から様子を思い浮かべたことが、その様子を表すには、「大・中・小」どの大きさを歌いたいかという、思いを明確に持つことにつながったと考えられる。「夕やけこやけ」のワークシートの記述において、「一日のうちのいつを表しているか、そのことが分かる言葉に線を引きましょう」という発問に対して、約40%の児童が、適切な箇所以外にも線を引いてしまっていたのは、2年生の児童の実態として、「言葉」を「文のまとまり」として捉えたためであると考えられる。また、歌いたい大きさ（強さ）は選ぶことができて、その理由について書くことができなかった約30%の児童は、普段から、思ったことを文章に表すことが苦手な児童であったということが、授業者への聞き取りから分かった。書くことが苦手な児童に対しては、ねらいに沿った意図的な問いかけにより、思いを引き出し、児童が答えたことを「今、言ったことを書いてみよう」と、促すことが必要である。

実践〔2〕においては、「虫の鳴き声をどの大きさを歌いたいですか?」「その大きさを選んだのは、虫がどんな様子で鳴いていると思いつかべたからですか?」という問いかけにより、音楽を形づくっている要素の「強弱」の視点から、虫が鳴いている様子を思い浮かべることができたことが、ワークシートの記述からも分かる。実践〔2〕のワークシートの記述において、全員の児童が、大きさを選択し、選択した理由について記述することができた点については、実践〔1〕の経験が生かされていることが伺える。しかし、授業者が意図していた「虫の様子」に結び付かない記述が見られたのは、発問の内容が「その大きさを選んだ理由や、思いつかべた様子は?」というものだったため、児童の思考が「虫の様子」に限定されず、広がってしまった結果であると考えられる。言葉での記述を求めたことについてや、発問の内容等の課題は見られたが、アンケートの結果を見ると、授業者の意図的な問いかけにより、児童に、音楽を形づくっている要素に気付き、様子を思い浮かべて歌ったり、「その様子を表すには、強弱をこんなふうに工夫してみたい」と思いを持ったりすることにつながったと考えられる。

## 3 「授業展開シート」～試行の場の設定～

### (1) 結果

#### ① 具体的な実践内容

音楽を形づくっている要素から感じ取ったことを基に、児童一人一人が持った「こう表現してみたい」という思いをワークシートに記述し、思いを共有できるように、ペアで伝え合い、表現を試行する場を設定した(図13)。

#### ② 授業観察及び、授業者への聞き取りから

実践〔1〕「夕やけこやけ」の第2時では「～だから、この強さ（大きさ）で歌いたい」と伝え合った。いつも楽しそうに歌っているが、友達との関わりが少ない児童は、ペアの友達に「一番はカラスとバイバイするから中くらいの大きさ、二番は寝ている小鳥が目を覚まさないように小さい声で歌います」と伝え、歌ってみた。教師の「どうでしたか?その様子を聴こえましたか?歌った友達に伝えてあげてね」という言葉がけに、聴いていた友達は「聴こえ

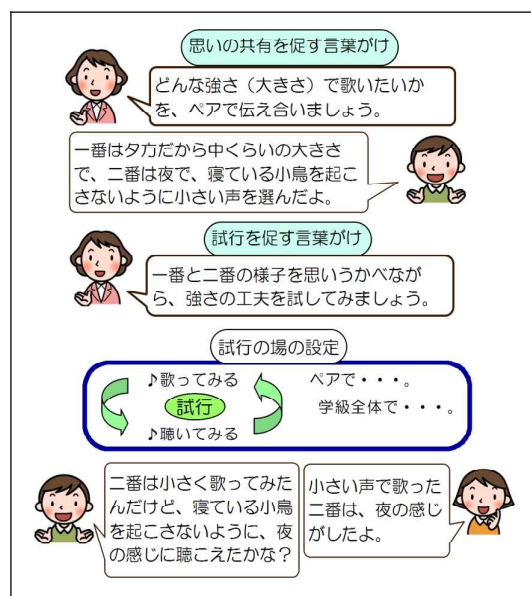


図13 実践〔1〕発問・活動例

たよ」と伝えていた。児童はうれしそうに笑っていた。次に聴き役になった児童は、友達の歌を目を閉じて一生懸命聴いていた。また、実践〔1〕・〔2〕のペアでワークシートに記述したことを伝え合う場面において、友達の思いを聴いて、「ふう～ん」と頷いたり、「へえ～」とつぶやいたりして、友達との関わりの中で、うれしそうな笑顔が見られた。友達の思いを聴いた後に、ワークシートに記述してあった自分の思いを書き直したり、書き足したりしている児童も見られた。教師の「みんなで試してみよう」の言葉がけで、自分が選んだ大きさや、友達から出された自分とは違う大きさに実際に歌ったり聴いたりして試す場面では、「一番は中くらいの声を選んだけど、〇〇さんが選んだ、みんなで手をつないで楽しく帰っているから大きい声、というのも歌ってみたら良かったよ」などの言葉が聞かれた。

授業の前半と、授業の最後に歌ったときの児童の様子とを比較すると、前半は教科書を見ている児童が多いのに対し、後半は、児童の目線が教室の前方に拡大掲示した歌詞に集まっていた。体で拍子を取りながら歌う児童、目を閉じて様子を思い浮かべている様子の児童、お腹やのどのあたりに手を当てて、声の大きさを確認し、きれいな声で歌おうと意識している児童の姿も見られた。

以下は、授業実践〔1〕・〔2〕を終えて、授業者から聞き取った内容である。「ペアでお互いの歌を聴き合い、児童が『どう聴こえたか』を伝え合ったり、『歌ってどうだった？』『今、どんな声を出そうとしてたの』等、問いかけたりすることで、歌った感想を共有できたり、他を認め合ったりすることにつながったと思う。児童から出された思いを試してみることで、『みんなから出された歌い方で歌ってみよう』と試してみることで、集団で表現を工夫する主体的な活動につながったと思う」

## (2) 考察

友達と自分の思いを伝え合った場面の様子から、児童は考えを深めたり、「こうしてみようかな？」と思いをめぐらしたりしていたことが伺える。また授業の後半、児童が歌っている具体的な姿から、思いを歌唱表現に生かしながら、更にきれいな声で歌おうとする様子が伺えた。これは、強弱に留まらず、「きれいな声で歌いたい」「この曲の様子に合った声で歌いたい」と音色にも意識が向いている表れであると考えられる。この意識が、鍵盤ハーモニカや打楽器を演奏する場面などで、「きれいな音を出したい」「曲に合った音はどんな音かな？」というように、器楽や鑑賞にも広がっていくことが期待される。一人一人が抱いた思いを友達と伝え合いながら試行する場を設け、ねらいの達成に向けて教師が働きかけたことは、児童に、集団で表現を工夫する楽しさを味わわせながら、思いを持って歌唱表現させることに有効であったと考える。

## 4 「教材解説シート」「ワークシート」「歌詞シート」

### (1) 結果

#### ① 授業実践〔1〕・〔2〕における授業観察及び、授業者からの聞き取りから明らかになった、それぞれのシートの有効性

##### ア 「授業解説シート」について

以下は、授業者の言葉である。

「普段の授業ではあまり意識していなかったが、『伸ばしたい資質能力』や『学習指導要領との関連』から、その教材が持っている価値や概要をつかむことができ、『到達目標』が示されていることで、目指す児童像を具体的に描くことができた。また、作詞、作曲者が示された縦書きの歌詞から、その教材のイメージをつかむことが可能になった。『ワンポイントアドバイス』は授業実践に当たって、頭の片隅に入れておいて実際の授業に生かすことができた」

##### イ 「ワークシート」について

ペアで思いを伝え合う場面では、ワークシートを見ながら伝え合う様子が見られた。授業者からは、「強弱などは選択して○で囲む様式だったため、書くことに必要以上に時間を取られることがなくて良かった」「授業後に児童が書いたことを確認できてよかった」との声が聞かれた。

## ウ 「歌詞シート」について

授業の後半は、拡大掲示した歌詞シートに児童の視線が集まっていた。手元の教科書を見ていたときと比較すると、目線が上がり、自然と姿勢もよくなっていた。黒板に掲示して使用した。授業者からは、「児童に意識させたいところや、児童から出された工夫などを直接書き込むことで、児童が目で見確認することができ、思いを共有する上で有効だった」との声が聞かれた。

### (2) 考察

伸ばしたい資質能力の明確化が今年度の学校教育の指針の中でも示されているが、音楽科において「どのように明らかにしたらよいか分からない」という声がよく聞かれる。今回、「教材解説シート」に学習指導要領との関連を明示したことで、教師が根拠を基に授業を構想できるようになったと考える。「ワークシート」についても自分の思いを記述できるように、低学年という発達段階に合わせて形式を考えたことで、書くことが苦手な児童も回答することができた。また、書いたことを基に友達と伝え合うこともできた。「歌詞シート」は、拡大掲示して使用したことで、児童の視線や意識を集中させることができ、児童の思いを書き込み、思いを共有する上でも有効であった。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

- 「授業展開シート」に基づいて、授業の始めに、児童にとって分かりやすい「めあて」を示し、全員で声に出して確認したり、授業の終末にねらいに沿った「振り返り」を行ったりしたこと、さらに、授業の途中でめあてに立ち返り、児童の意識がめあてからそれないようにしたことは、児童に見通しを持って活動させ、「様子を思い浮かべて、その様子に合った強さを工夫できた」という、思いを歌唱表現に生かしたことを実感させる上で有効であった。
- 「授業展開シート」に基づいて、楽曲から感じ取った気分や、その気分を醸し出す理由を意図的に問いかけたことは、音楽を形づくっている要素を意識させることにつながり、それらを基に「～だから、こう表現したい」というように、児童一人一人に思いを明確に持たせることができた。
- 「授業展開シート」に基づいて、授業の中で、一人一人が抱いた思いをペアで伝え合い、学級全体で共有し、試行する場を設けたことで、児童に多様な表現方法に気付かせることができた。さらに、自分の思いを明確にさせたり、深めさせたりしながら、集団で表現を工夫する楽しさを味わわせることができたことで、児童は思いを歌唱表現に生かすことができた。
- 「教材解説シート」「ワークシート」「歌詞シート」を活用して授業を行ったことは、思いを歌唱表現に生かすことができる児童の育成に有効であった。

以上のように、「音楽科授業モデルプラン」は、学級担任が、思いを歌唱表現に生かすことができる児童を育てる指導を充実させる上で、有効なモデルプランであった。

### 2 課題

- 低学年の児童においては、語彙の少なさから、的確な言葉で自分の思いを表現することが難しいことがあるので、以下の手立てを「音楽科授業モデルプラン」に示す必要がある。
  - ・あらかじめ様子を表す言葉をいくつか示して選択させる。
  - ・児童のつぶやきから、教師がねらいに沿って「思い」を引き出し、言い直す例を示す。
  - ・授業の中に出てきた様子を表す言葉を常に見えるところに掲示したり、カード化して音楽の授業に取り入れたりしながら、音楽的な要素と関連付けて思いを表現できるようにする。
- 楽曲から感じ取ったことや、自分の思いを表現すること、ペアや学級で思いを共有しながら表現を試すことを、発達段階に応じて継続的に行っていく必要がある。

## VII より良い実践に向けて

## 1 「音楽科授業モデルプラン」の更なる充実を目指して

本研究は、学級担任が音楽指導を行っている割合が高い低学年に視点を当て、低学年の学級担任が取り組める「授業モデルプラン」の作成・活用を通して、思いを歌唱表現に生かすことができる児童の育成を目指した研究である。授業実践では、音楽の免許を持たない教員でも、「音楽科授業モデルプラン」を活用することで、児童に「自らが思いを持って表現する音楽の楽しさ」を伝えることができた。この結果は、本プランの有効性を示すものである。

ただし、それぞれの学校の実態によっては、中学年、高学年も学級担任が音楽指導を行うことも考えられる。より系統的な指導を行うためにも、中学年、高学年でも活用できるよう、内容を充実させていく必要がある。また、その際には、学級担任の先生方の声に耳を傾けながら、常に学級担任の立場で使いやすい「授業モデルプラン」の作成を目指すことが必要であると考えられる。

## 2 音楽的な感受を基にした児童の主体的な活動を目指して

児童は本来、楽曲から直感的に感じ取ったことを表現することができる、素晴らしい力を備えている。直感的に感じ取っていることを教師がねらいに即して、意図的に「どんな気持ちになった?」「どんな様子を思い浮かべた?」「どんな感じがした?」等、問いかけることで、児童が感じ取っていることを引き出して意識化させ、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えさせることが必要である。音楽を形づくっている要素を基に、思いや意図を持たせることは、児童が思いを明確に持ち、それを表現しようとする主体的な活動につながると考える。

思いや意図を持って表現する力を育てることは、音楽科に求められている重要な課題である。それらの力を育てるためには、教師が発達段階に応じた、音楽を形づくっている要素の系統性を踏まえた指導を行うこと、更には、小・中学校の連携を図り、義務教育9年間を見通した指導の充実が求められると考える。

### <参考文献>

- ・文部科学省 編著 『小学校学習指導要領解説 音楽編』(2008)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン』(2012)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン～実践の手引き～』(2014)
- ・小原 光一 編著 『新学習指導要領ガイドブック ポイントと事例』 教育芸術社(2008)
- ・高須 一・佐藤日呂志 編著  
『授業の流れがバッチリ見える! 小学校音楽の新題材モデル20 低学年編』 明治図書(2011)
- ・高倉 弘光 著 『[共通事項]が見える 子どもがときめく音楽授業づくり』  
東洋館出版社(2012)
- ・文部科学省教育課程課/幼児教育課 編集 『初等教育資料』平成26年5月号  
東洋館出版社(2014)
- ・文部科学省教育課程課/幼児教育課 編集 『初等教育資料』平成26年10月号  
東洋館出版社(2014)

### <担当指導主事>

福島 桂 長沼 祐子